

郵便事業株式会社の新規業務

国際貨物運送に関する貨物利用運送事業、貨物航空運送代理店業、貨物自動車運送事業、通関業、倉庫業及びこれらに附帯する業務を組み合わせ、荷主に対して行う国際物流業務に関する新規業務認可申請の件

ユニバーサルサービス維持を使命とする郵便事業の発展と成長・拡大可能な事業体としての経営基盤を確立するために、同事業以外の成長分野において、新たな収益源を確保していく必要がある。

また、郵便事業株式会社が物流事業への展開をさらに進めていく上では、近年経済成長が著しいアジア地域を中心に、海外進出・展開を進める荷主企業の動きが加速する中で、今後増大していく国際物流ニーズにも対応していくことが重要である。

このため、郵便事業株式会社が保有する国内物流ネットワークとの相乗効果も期待できる新規業務として、国際航空貨物運送業務を中心とした国際物流業務を営むこととしたい。

さらに、国際郵便事業を推進していく中で、本件業務を開始することは、多様化するお客さまのニーズに、より幅広い的確に対応できるようになるものであり、国際郵便事業の営業機会の向上にもつながることから、国際郵便事業の一層の発展を図ることができるものとする。

なお、本件業務の開始に際しては、現在山九株式会社が行っている航空貨物事業をベースとして子会社（共同出資会社）を設立し、アジア地域を中心として実施する。

郵便事業株式会社

目次

新規業務展開の背景	P 3
新規業務の概要	P 4
共同出資会社による展開	P 7
サービスの位置づけのイメージ	P 8
新規業務に関連する同業他社への配慮	P 9
参考資料	P 10 ~ 23

新規業務展開の背景

- ユニバーサルサービス維持を使命とする郵便事業の発展とバランスのとれた経営基盤を確立するためには、新たな収益源確保が必須。
- 物流事業への展開を進める中、今後増大していく国際物流ニーズにも対応していくことが重要。
- 既に諸外国の郵便事業体は、国際郵便以外に、貨物分野での国際物流も展開。

**郵便事業株式会社の国内ネットワークとのシナジー
が期待できる国際航空貨物運送業務を中心とした、
国際物流展開を行なう**

- 航空貨物輸送品は、運賃負担力のある高価格品で、輸送スピードを求め、比較的小型形状のため、郵便事業株式会社のネットワークで取り扱いやすいものが多い。
- 航空貨物輸送は、中国の経済成長に伴い、特に中国・アジア地域で増加中。
- 商取引のグローバル化が進む中、貿易手続、輸送モード使い分けに不慣れな中小企業・町工場、地方のお客さまからの航空貨物輸送ニーズに対し、郵便事業株式会社ネットワーク活用により、国際宅配サービスを身近に提供。

新規業務の概要 ①

国際貨物運送に関する(1) 貨物利用運送事業、(2) 貨物航空運送代理店業、(3) 貨物自動車運送事業、(4) 通関業、(5) 倉庫業及びこれらに附帯する業務を、新規業務として実施

① 一般航空貨物運送(国際航空フォワーディング業務※)

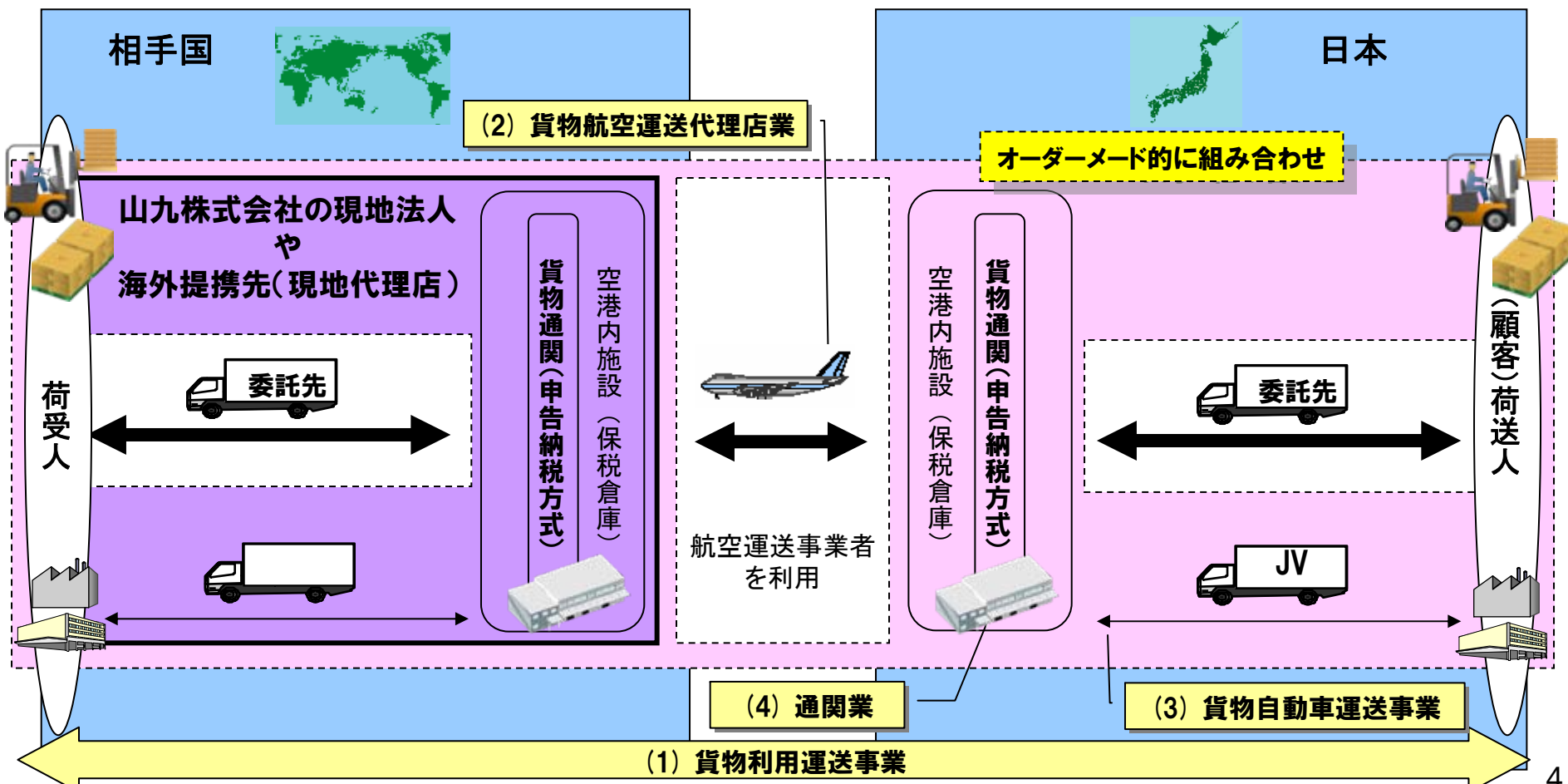
※フォワーディング業務: 荷主依頼を受け、実運送事業者(キャリア)を使った国際間の貨物運送を引き受ける業務

- 法人荷主からの大口発送品(航空輸送になるもの)
- 個別見積もりによるオーダーメイド料金
- サイズ・重量の制限なし
- 全世界宛に対応
- 主にairport to airport輸送。契約に応じて法人倉庫へ配達
- 契約に応じて海外から輸入される大口貨物の国内配送も実施



(5) 倉庫業

荷主から貨物保管も受注した場合

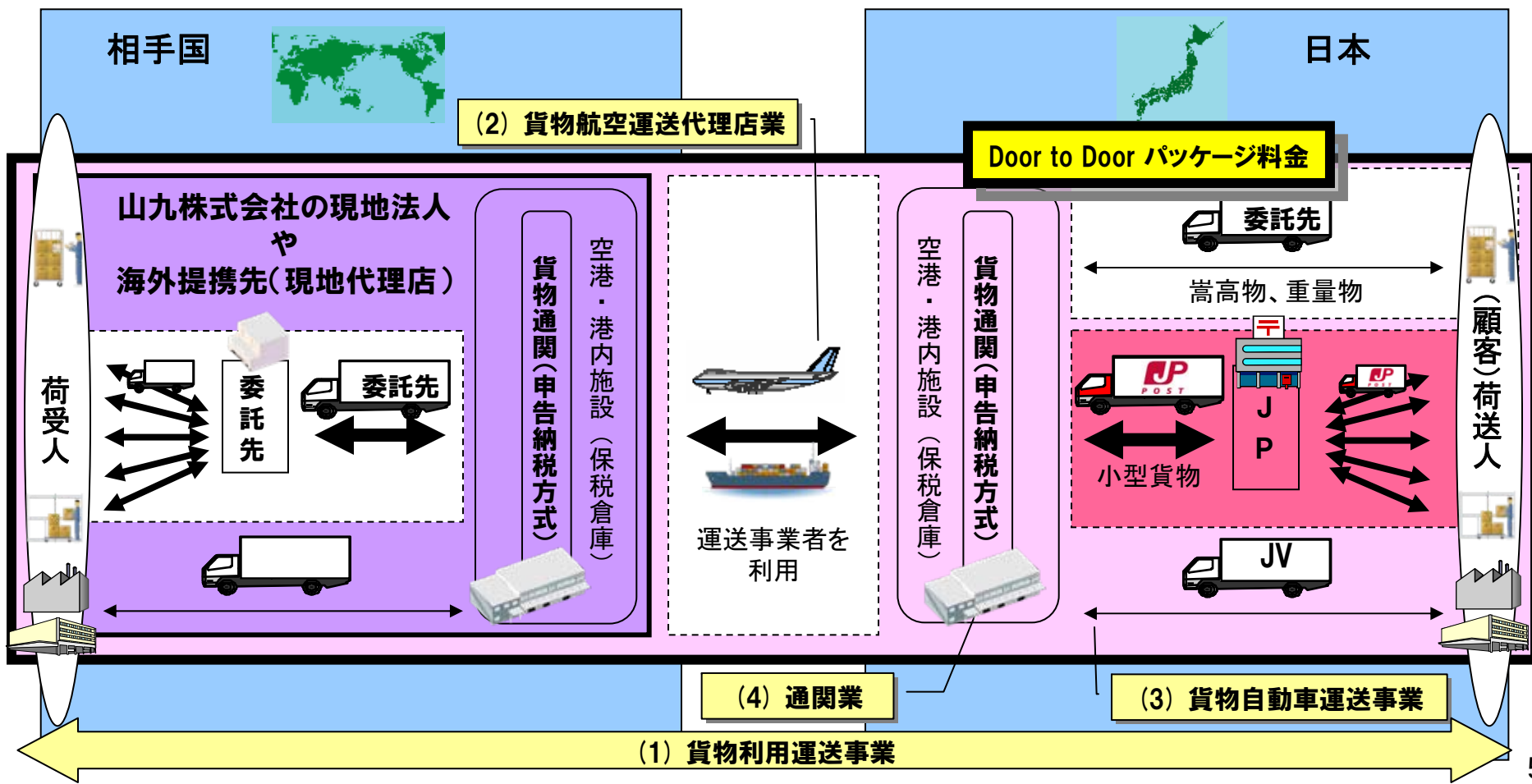


新規業務の概要 ②

国際貨物運送に関する(1) 貨物利用運送事業、(2) 貨物航空運送代理店業、(3) 貨物自動車運送事業、(4) 通関業、(5) 倉庫業及びこれらに附帯する業務を、新規業務として実施

② 国際小口貨物運送(国際宅配業務) *万国郵便条約及び郵便法等に基づく郵便サービスではないもの*

- 法人荷主からの小口発送品(航空輸送と海上輸送の両モードを提供)
- 全ての費用をカバーしたパッケージ料金
- 小型貨物(サイズ・重量の範囲設定有。ただし、タリフに無い30kg超や大型貨物も相談に応じて対応可能)
- 集荷から配達までのdoor to doorサービス
- 海外から輸入される小口貨物の国内配送も実施
- 郵便事業株式会社の国内ネットワーク(営業網、集配・輸送網)を活用



新規業務の概要 ③

国際貨物運送に関する(1)貨物利用運送事業、(2)貨物航空運送代理店業、(3)貨物自動車運送事業、(4)通関業、(5)倉庫業及びこれらに附帯する業務を、新規業務として実施

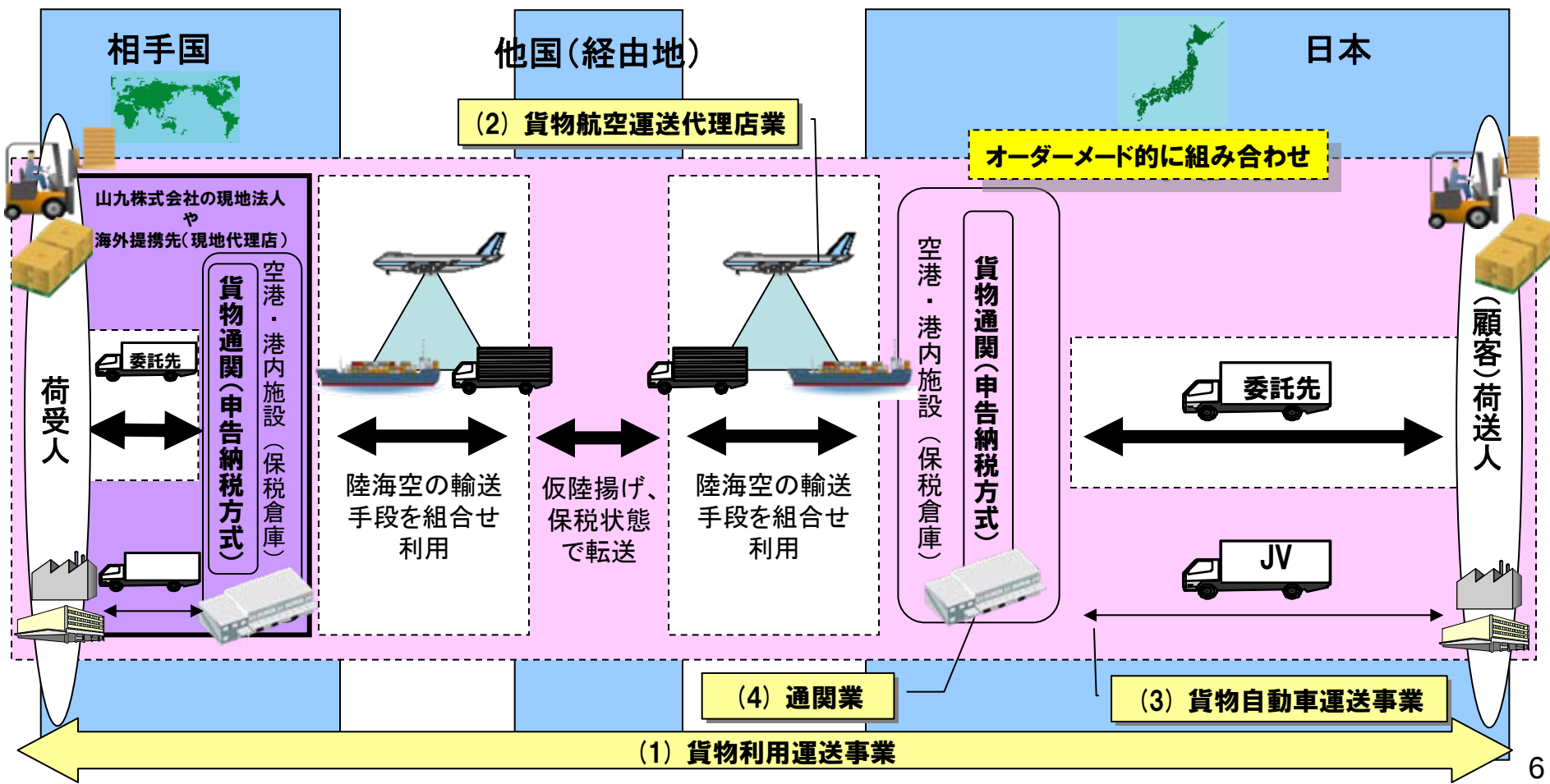
③ 国際複合一貫輸送

- 法人荷主からの発送品(航空輸送のみで収まらないもの)
- 海上輸送+陸上輸送など、陸・海・空の輸送手段を組み合わせた最終仕向け地までの一貫輸送を手配
- 例えば、迅速だが運賃の高い航空輸送と、安いが時間のかかる海上輸送のメリットを結びつけたSea&Air輸送など、航空輸送のみより安く、海上輸送のみより速いサービス

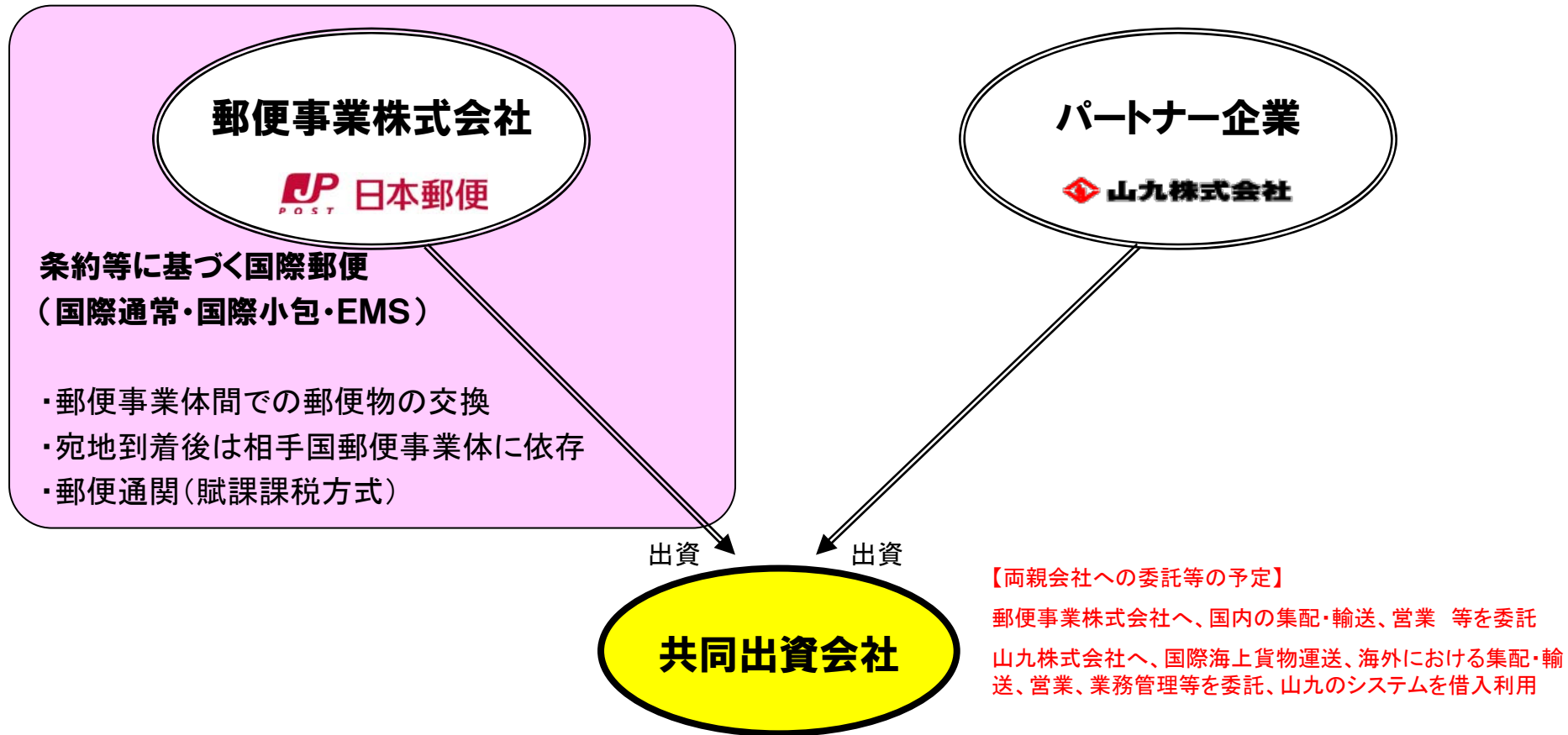


(5) 倉庫業

荷主から貨物保管も受注した場合



共同出資会社による展開



- ①一般航空貨物運送(国際航空フォワーディング業務)
- ②国際小口貨物運送(国際宅配業務)
- ③国際複合一貫輸送
- ④ロジスティクス

- ・共同出資会社が集荷から配達まで管理
- ・貨物通関(申告納税方式)

サービスの位置づけのイメージ

重量物 嵩高品 遅い 輸送 ロット大

↑

軽い 小型品 速い 輸送 ロット小

↓

子会社(共同出資会社)を中心に行う 国際貨物サービス※

※法人顧客が主に貿易貨物の輸出入に利用
貨物通関(申告納税方式)であり、申告用通関書類が作成が重要
大量発送の貨物も、1件あたり1式の書類で発送可能



○一般航空貨物運送(国際航空フォワーディング業務)

○国際複合一貫輸送

○ロジスティクス

○国際小口貨物運送(国際宅配業務)

○EMS等、国際郵便

郵便事業株式会社で行う 国際郵便サービス※※

※※万国郵便条約及び郵便法等に基づく郵便サービス

個人法人を問わず誰でも利用可能

原則として、郵便通関(賦課課税方式)であり、到着国での税関の全数検査で賦課税額を
定めるため、発送時の書類作成が簡易。

信書
輸送

書類・サンプル
仕送り品

製品・商品

Low Value

High Value

CtoC

BtoC

BtoB

新規業務に関連する同業他社への配慮

(1) 本件業務は、他の民間事業者と同様、貨物利用運送事業法等の法令に基づき、同一条件の下で実施するものである。

(2) 郵便事業株式会社として、本件業務を行う子会社の営業活動及び業務に対して、不当な方法により経営資源を供与する等の支援は行わないものとする。

なお、郵便事業株式会社が本件業務に関して、本件業務を行う子会社との間で業務の受委託を行う際には、適正な対価の授受によって行うこととしている。

(3) 本件業務に関連する日本発航空貨物市場規模に対し、山九株式会社の航空貨物事業の現状売上をベースに見通した本件業務の開始時の売上は、わずかな市場シェアにとどまる見込みである。

以上より、本件業務の実施は、同種の業務を営む事業者の利益を不当に害することはない。

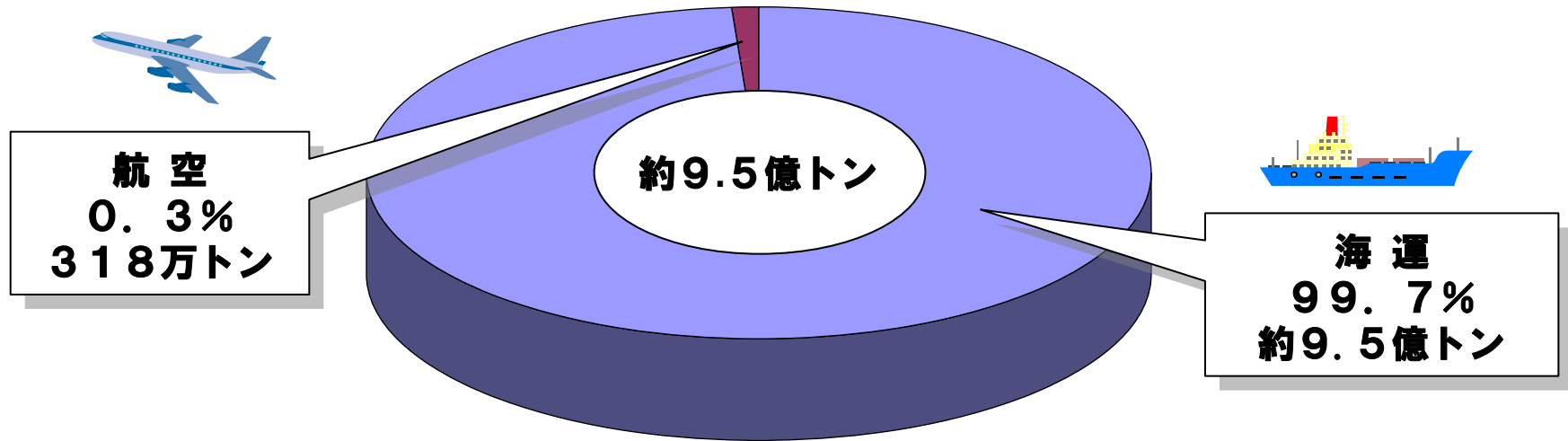
参考資料

市場分析：日本発着の国際輸送における海運と航空の比較

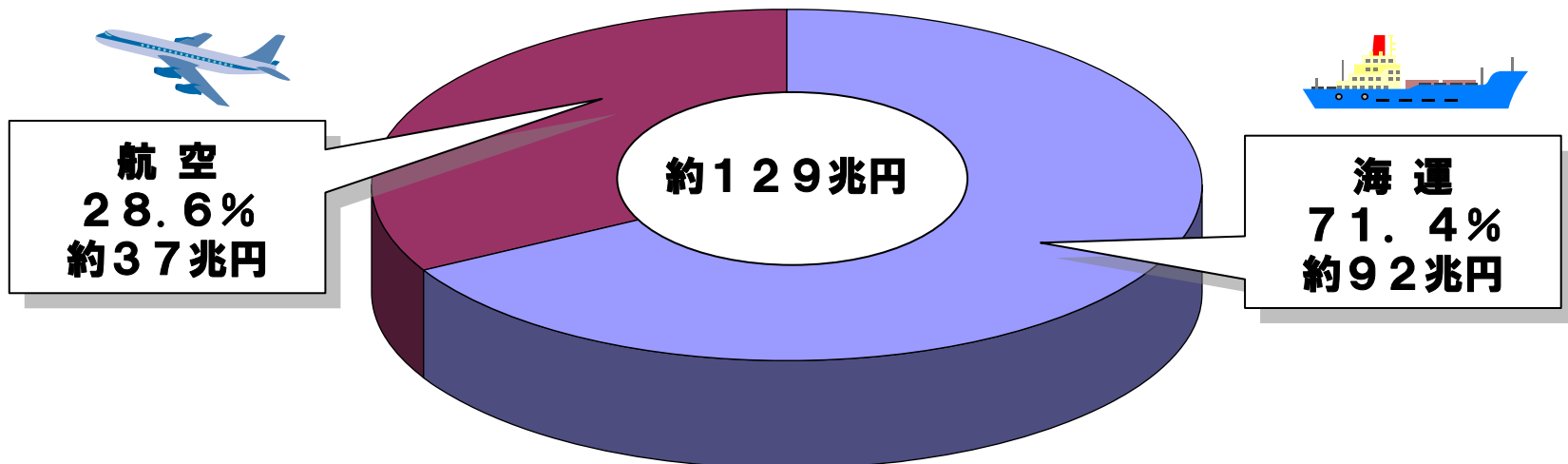
輸送重量の輸出・輸入計と割合（2005年度）

データ出典：数字でみる物流2007年版
(社)日本物流団体連合会発行

(国土交通省海事局資料・航空局資料 及び
「外国貿易概況」((財)日本関税協会)により作成)



輸送金額の輸出・輸入計と割合（2005年度）

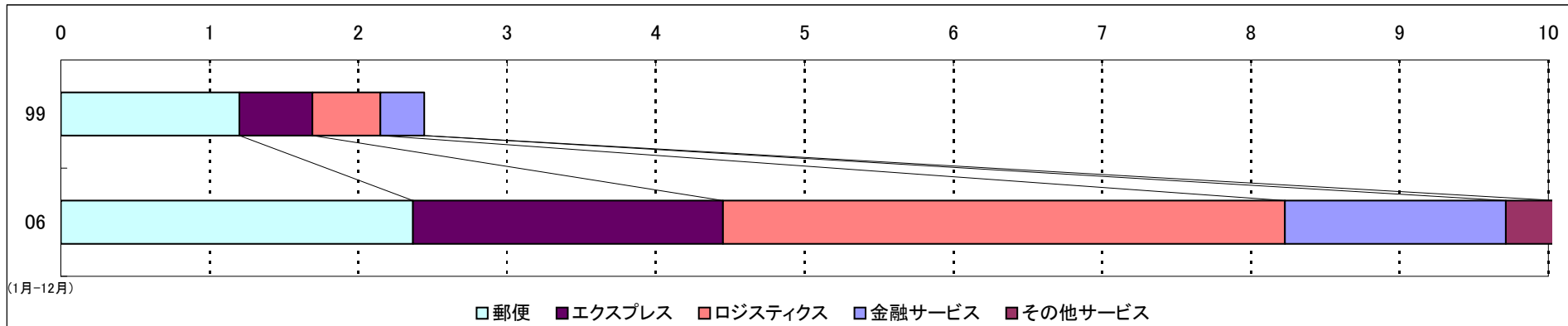


各国郵便事業体の売上の変化

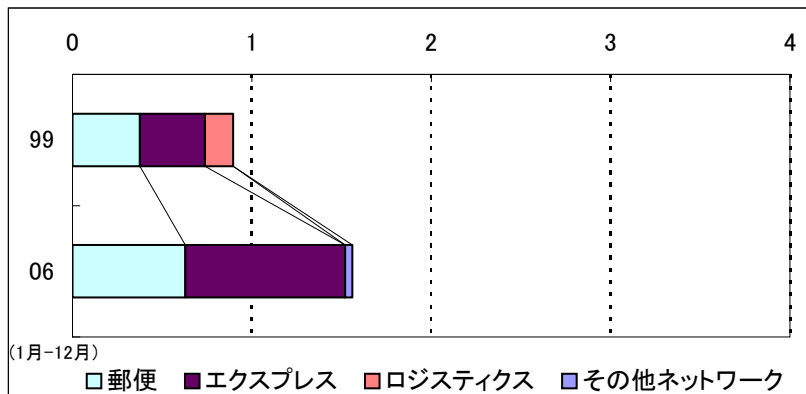
諸外国の郵便事業体は、国際郵便以外に、貨物分野での国際物流もグローバルに展開

(単位: 兆円)

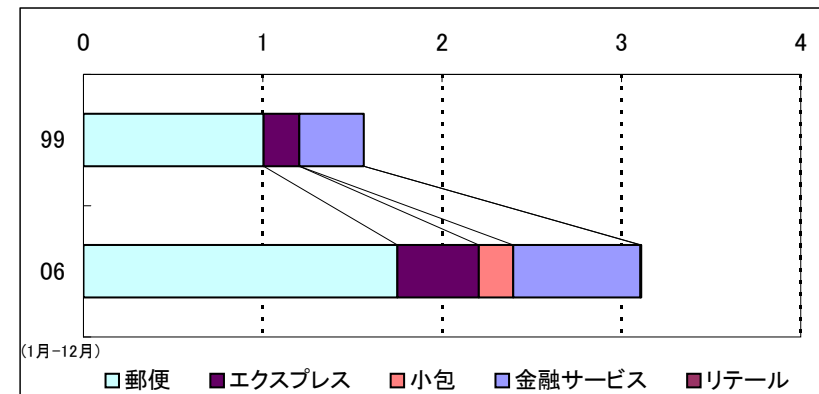
○ドイツ(ドイツポスト・ワールドネット)



○オランダ(TNT)



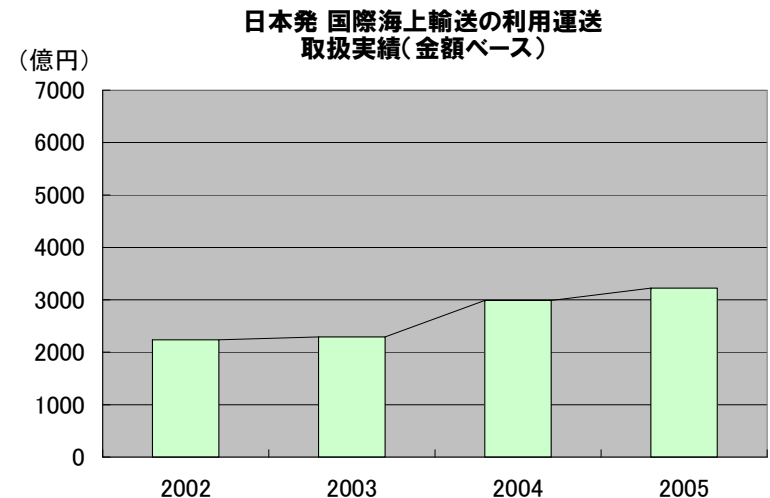
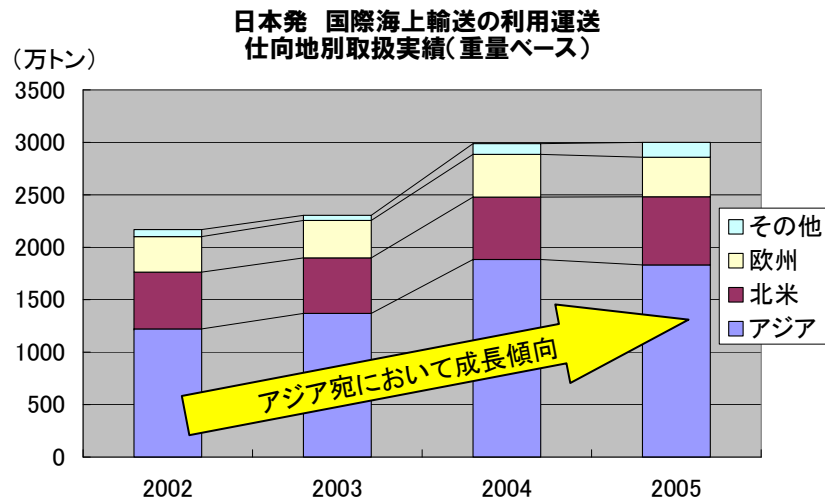
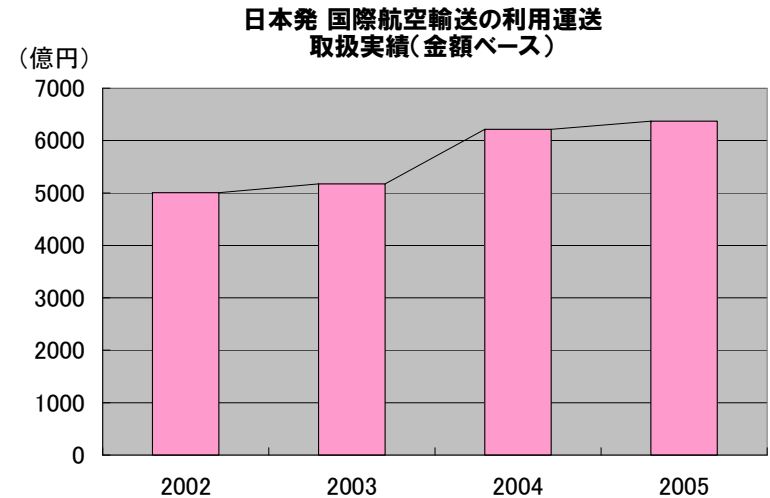
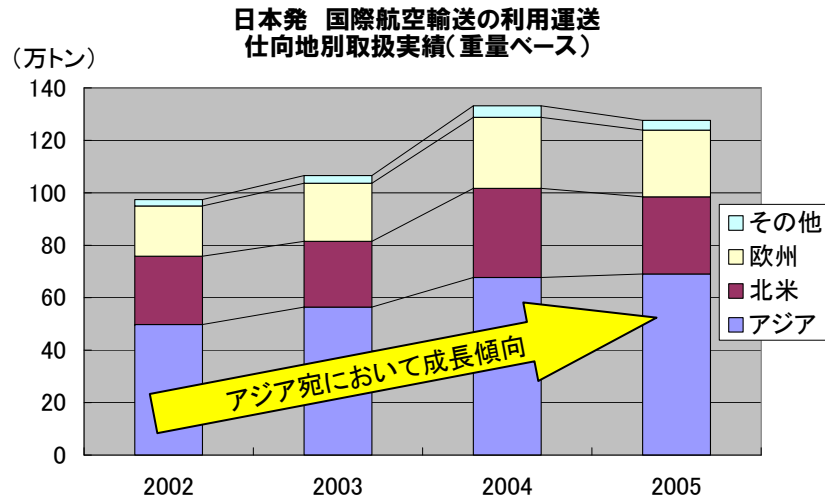
○フランス(ラ・ポスト・グループ)



※2005年12月ロジスティクス部門からの撤退を表明し、現在は売却済。
また、05年にセグメント変更を行っているため、連続性はない。

市場分析:フォワーダー事業に関する市場規模

2005年度のフォワーダー事業(貨物利用運送事業)実績に関する国土交通省報告では、
 航空輸送の利用運送は、重量ベースで128万トン(73事業者)、金額ベースで6400億円(64事業者)
 海上輸送の利用運送は、重量ベースで3000万トン(223事業者)、金額ベースで3200億円(208事業者)



市場分析：航空フォワーダー各社実績

日本発航空貨物混載^{*}実績[2006年] (全世界宛上位30社)

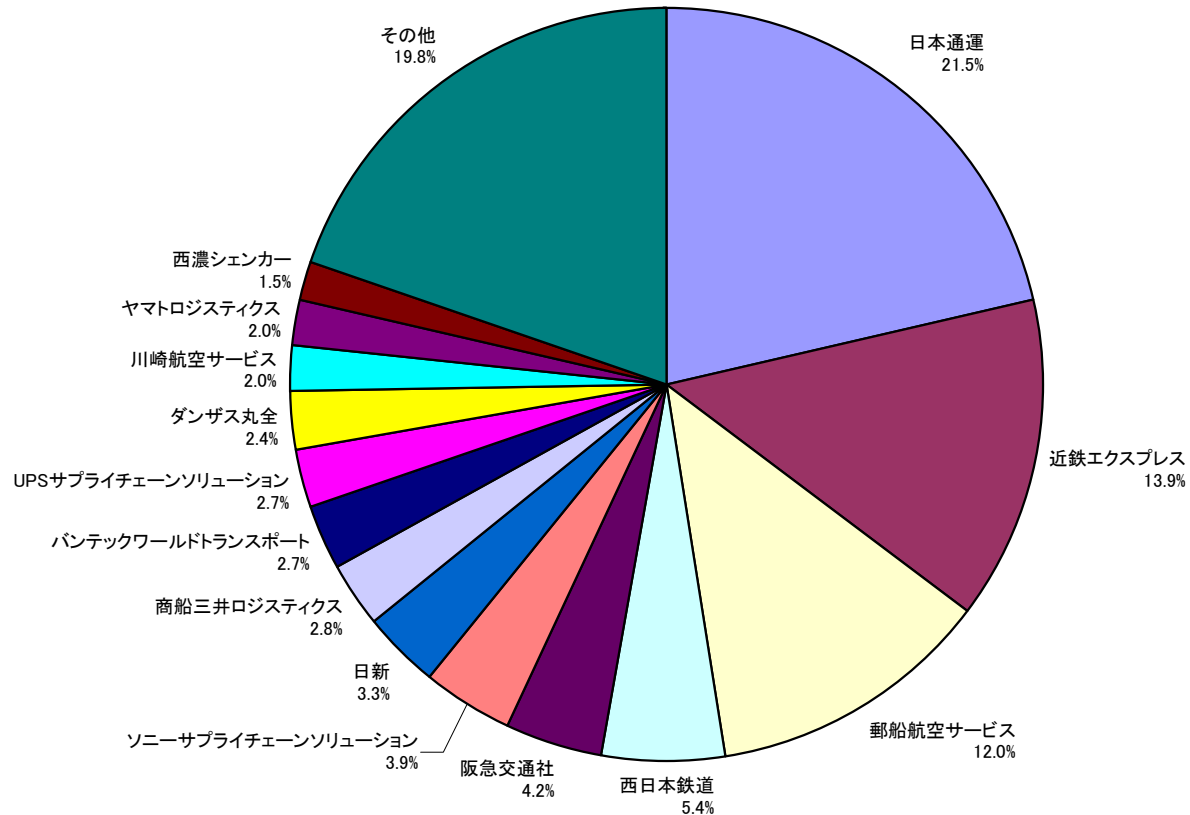
JAF A (航空貨物運送協会) 取り纏め67社実績より

単位:トン

順位	企業名	世界合計	シェア
1	日本通運	284, 229	21.5%
2	近鉄エクスプレス	183, 599	13.9%
3	郵船航空サービス	158, 352	12.0%
4	西日本鉄道	71, 174	5.4%
5	阪急交通社	55, 239	4.2%
6	ソニーサプライチェーンソリューション	51, 737	3.9%
7	日新	43, 303	3.3%
8	商船三井ロジスティクス	36, 948	2.8%
9	バンテックワールドトランスポート	35, 890	2.7%
10	UPSサプライチェーンソリューション	35, 155	2.7%
11	ダンザス丸全	31, 436	2.4%
12	川崎航空サービス	26, 448	2.0%
13	ヤマトロジスティクス	26, 089	2.0%
14	西濃シェンカー	19, 790	1.5%
15	日立物流	18, 483	1.4%
16	アイ・ロジスティクス	16, 141	1.2%
17	バックスグローバルジャパン	16, 138	1.2%
18	阪神エアカーゴ	15, 041	1.1%
19	TASエクスプレス	12, 862	1.0%
20	イージーエルジャパン	11, 121	0.8%
21	エクスペダイダーズジャパン	10, 899	0.8%
22	山九	9, 850	0.7%
23	キューネアンドナーゲルジャパン	9, 384	0.7%
24	三菱倉庫	8, 635	0.7%
25	NECロジスティクス	8, 614	0.7%
26	ジェイティービーカーゴ	8, 254	0.6%
27	ユナイテッド航空貨物	7, 502	0.6%
28	ユー・ティー・アイ	6, 935	0.5%
29	南海エクスプレス	6, 541	0.5%
30	DHLジャパン	6, 493	0.5%

※ひとつの航空用コンテナに2種類、2荷主以上の貨物を積み合わせることを混載といい、このような貨物を混載貨物という。混載業者が荷主から集めた小口貨物を大口貨物に仕立てることによって運賃減減に基づく安い運賃で運送を委託できる。この場合の荷主からの運賃と委託先へ支払う運賃の差のことを混載差益という。また、混載貨物をコンテナ1個単位にまとめるため、2社以上の輸送業者が協力することをコーロード(co-load)という。

日本発全世界宛航空混載貨物重量シェア[2006年]

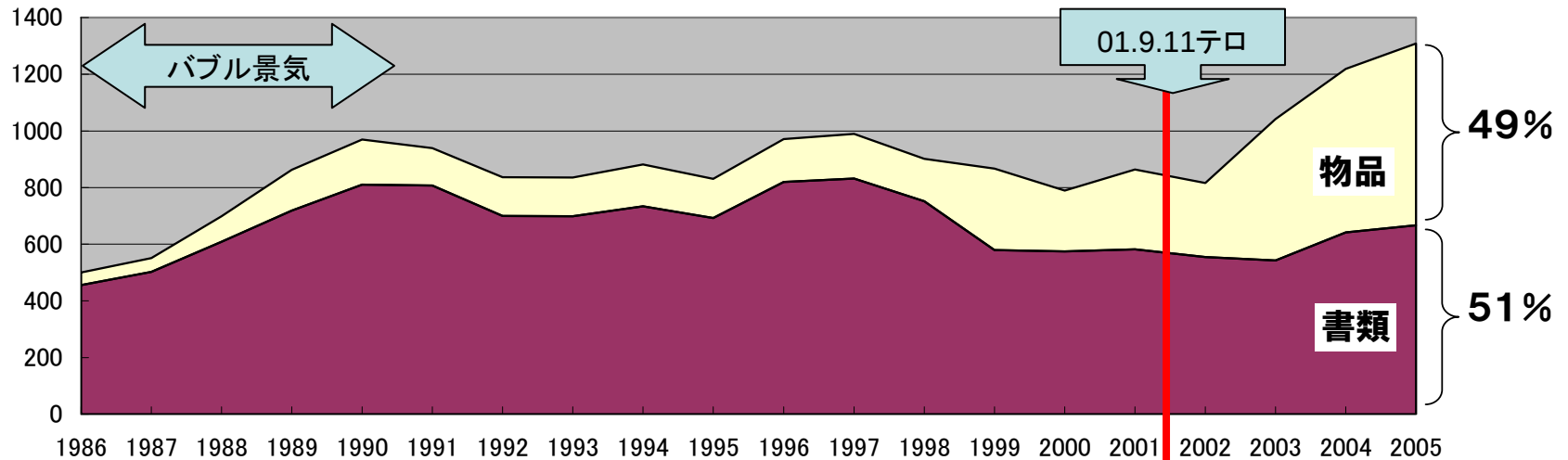


データ出典：CARGO 2007.2

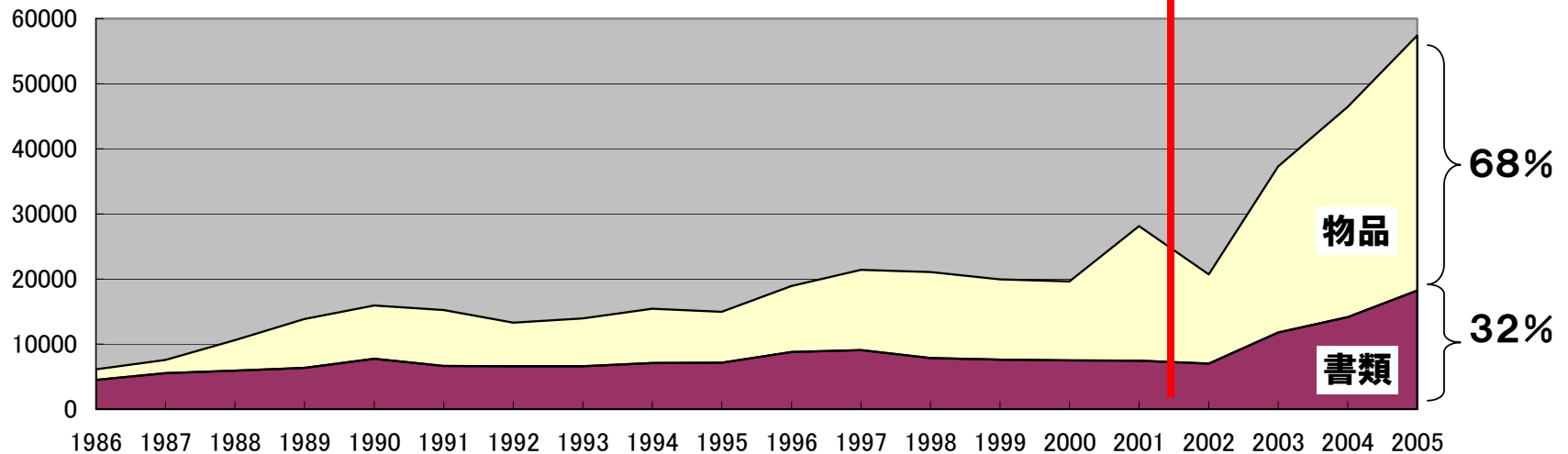
市場分析：日本発国際宅配便の市場成長

物品輸送分野が高成長。

日本発 国際宅配便取扱実績（件数：万件）



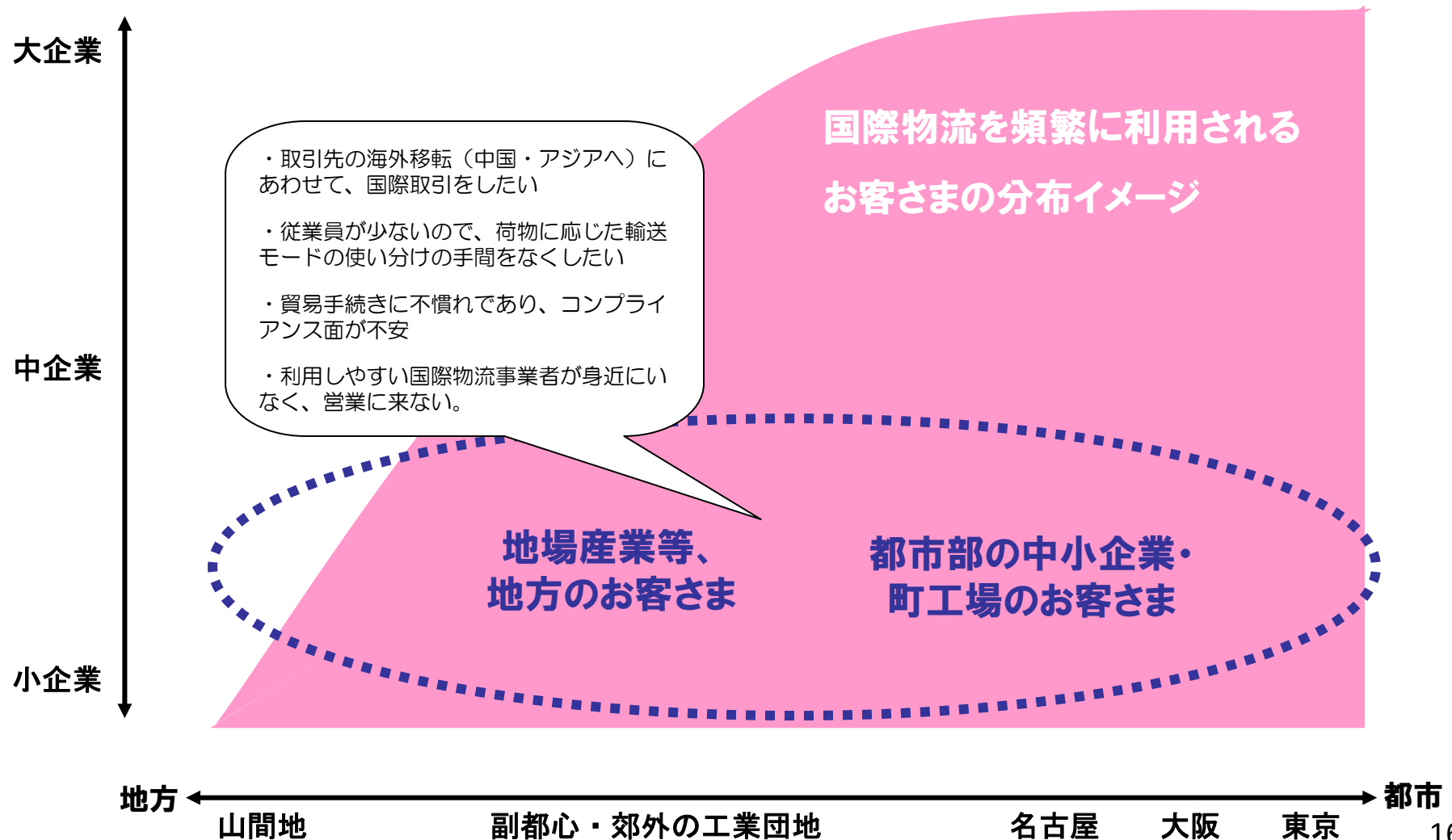
日本発 国際宅配便取扱実績（重量：トン）



顧客分析：ターゲット顧客のイメージ

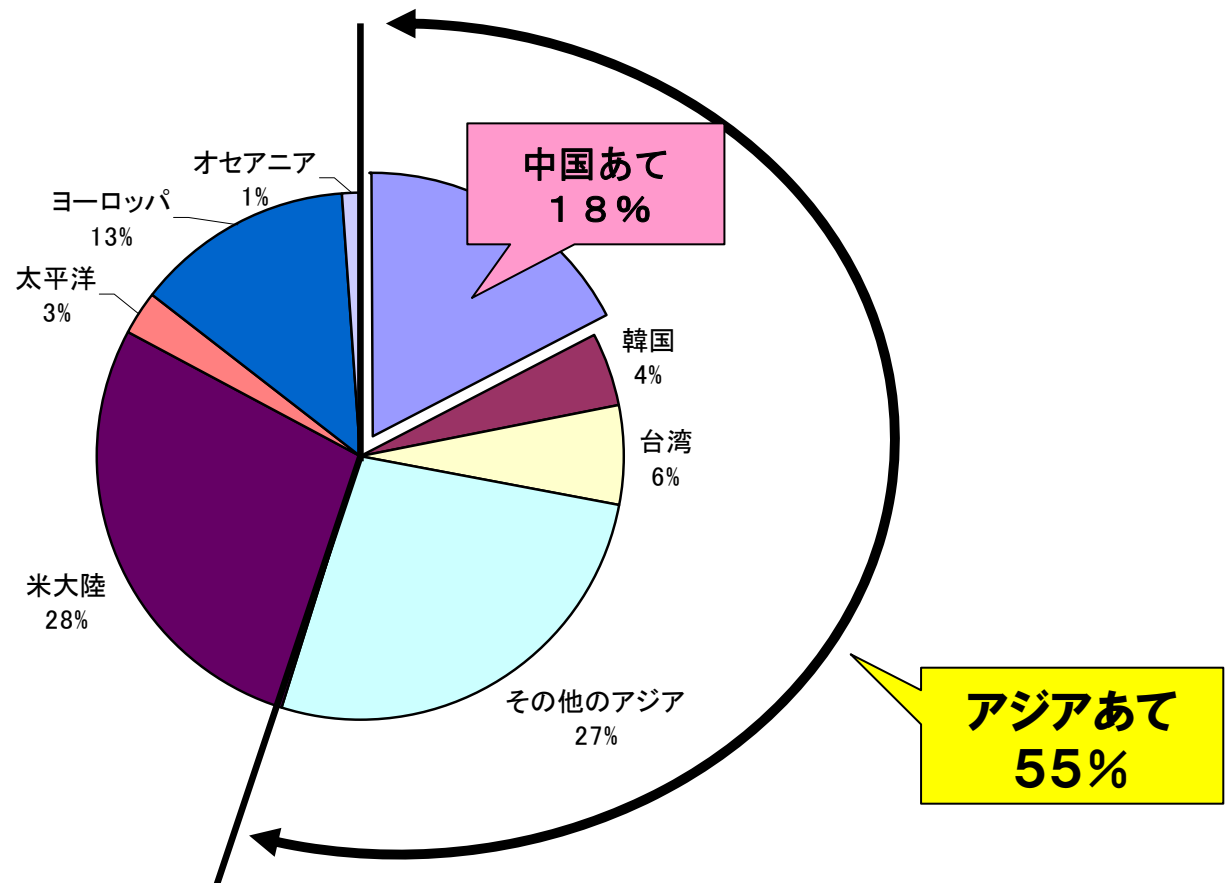
都市部のお客さまや地方の大規模工場のような、国際物流を頻繁に利用されるお客さまだけでなく、

これまで海外と積極的に取引してこられなかった、都市部の中小企業・町工場のお客さまや、地場産業等、地方のお客さまに、新規需要として、ご利用をしていただくことも期待。



顧客分析:ターゲットエリア

方面別国際航空貨物輸送実績(2005年度)



データ出典: 数字でみる物流2007年版 (社)日本物流団体連合会発行
〔「航空輸送統計年報」 国土交通省総合政策局情報管理部より作成〕

2008年2月27日 共同会見内容

郵便事業株式会社と山九株式会社による 共同出資会社の設立に関する合意について

日本郵政株式会社(東京都千代田区霞が関、取締役兼代表執行役社長 西川善文)のグループ会社である郵便事業株式会社(東京都千代田区霞が関、代表取締役会長CEO北村憲雄、以下「日本郵便」)と山九株式会社(東京都中央区勝どき、代表取締役社長中村公一、以下「山九」)は、日本郵便および山九が共同出資会社を設立することについて本日合意し、基本契約書を締結しましたので下記のとおり、お知らせいたします。

1 合意内容

日本郵便と山九は、荷主ニーズの大きい日本と中国・アジアを中心に展開する国際ロジスティクスサービスにおいて、小口貨物から一般航空貨物まで幅広くサービスを提供するために、山九の航空貨物事業をベースとした共同出資会社を設立することについて合意いたしました。

上記事業を実施するにあたり、郵便事業株式会社法(平成17年10月21日法律第99号)第3条第3項の規定に基づき総務省に認可申請を行う予定です。

2 共同出資会社の概要

出資比率	：	日本郵便60%、山九40%
営業開始日	：	2008年7月(予定)
主たる事業内容	：	国際航空貨物運送に係る貨物利用運送事業
その他	：	資本金、商号、本店、定款等については今後両社で検討します。

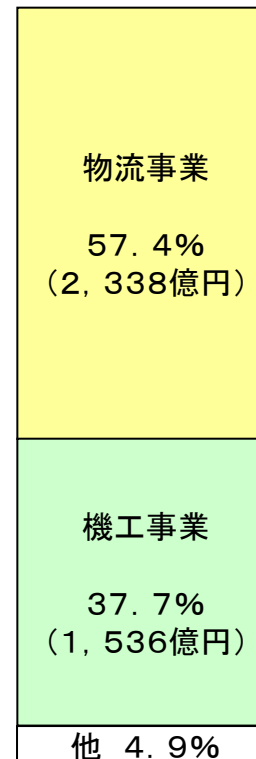
山九(株)の概要

山九(株) 会社概要

社 名	山九株式会社
本 社	東京都中央区勝どき 6 丁目 5 番 2 3 号
創 立	1 9 1 8 年（大正 7 年） 1 0 月 1 日
代 表 者	代表取締役社長 中村公一
資 本 金	2 6 4 億
従業員数	9, 1 1 0 名
主事業所	国内支店 3 9、海外駐在員事務所 3
関連会社	国内 4 7、海外 3 8
売 上 高	連結：4,074億円 単体：3,356億円 (2007年 3 月決算値)

山九(株)セグメント別売上構成

4, 074億円

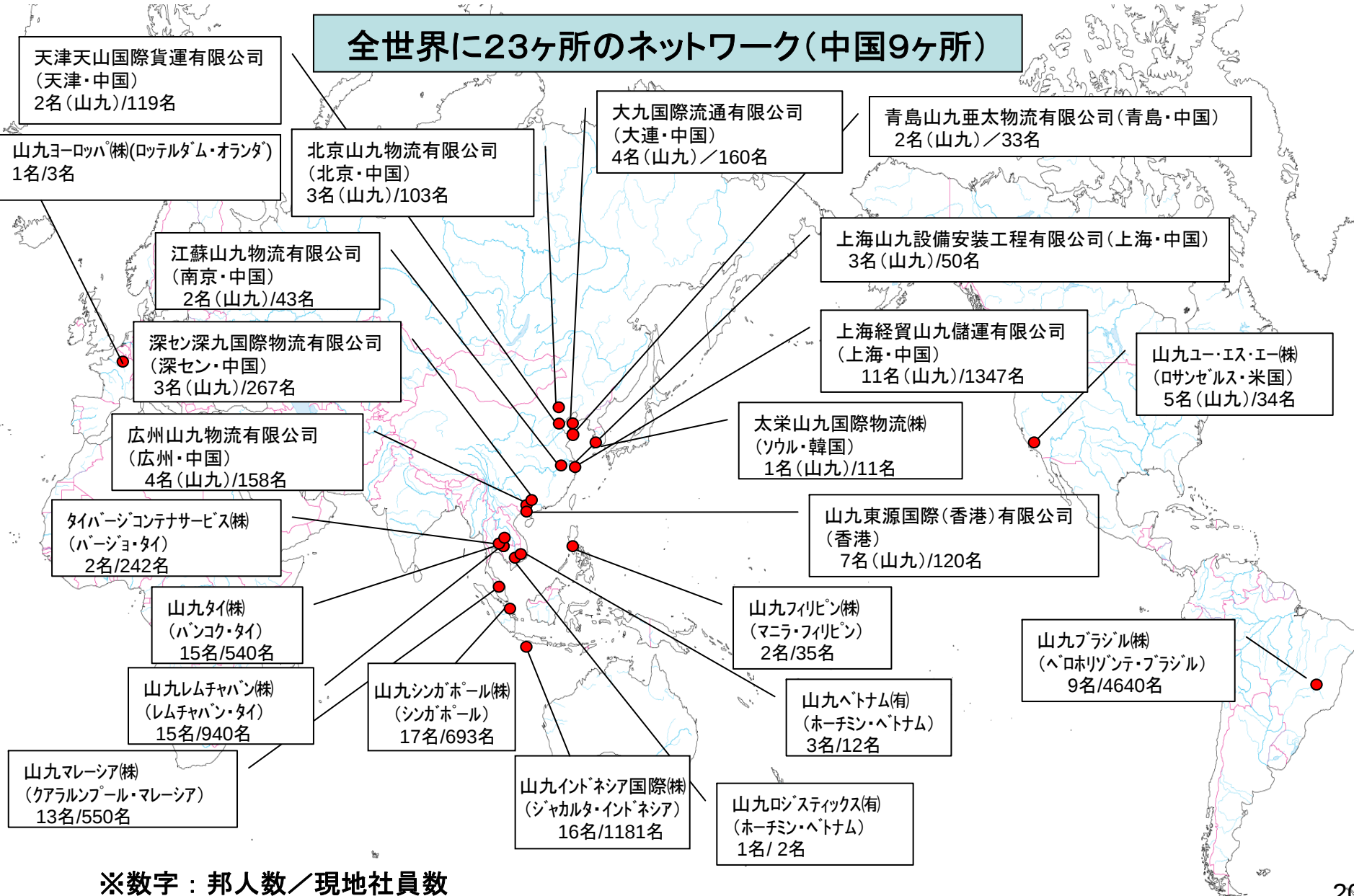


- ・3PL、コンサルティング
- ・国内陸上
- ・倉庫
- ・内航コンテナ/港湾
- ・構内物流
- ・国際物流/国際複合輸送
- ・国際プラント輸送
- ・航空貨物

- ・プラント建設工事
- ・プラントメンテナンス
- ・プラント設計/エンジニアリング
- ・プラント製作/加工
- ・プラント操業
- ・橋梁設計/製作
- ・重量物輸送
- ・機材レンタル

山九(株)の海外ネットワーク

全世界に23ヶ所のネットワーク(中国9ヶ所)



山九(株)の中国宛の強さ

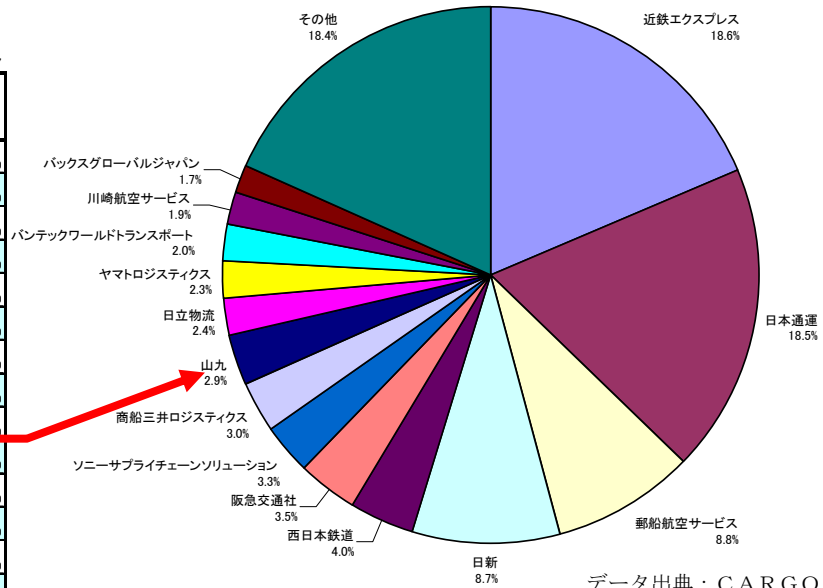
全世界宛22位。中国宛では9位

日本発航空貨物混載実績[2006年]
(全世界宛上位30社のうち中国宛順位)

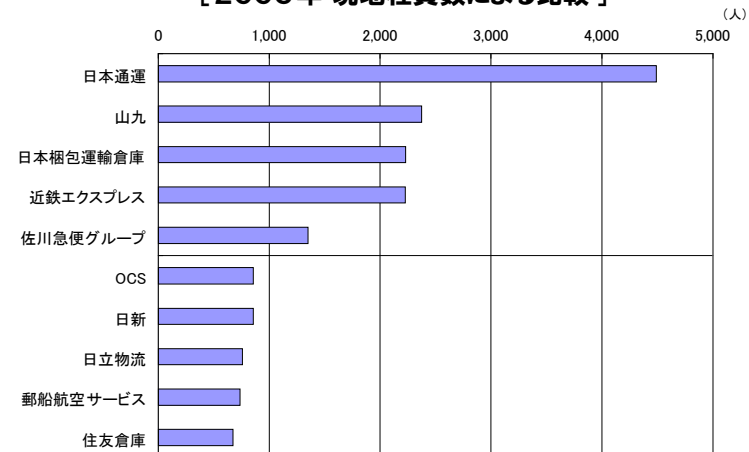
JAFA(航空貨物運送協会)取り纏め67社実績より

世界宛 順位	中国宛 順位	仕向け地	中国	中国宛 シェア	世界宛 シェア
		企業名			
2	1	近鉄エクスプレス	29,639	18.6%	13.9%
1	2	日本通運	29,504	18.5%	21.5%
3	3	郵船航空サービス	13,958	8.8%	12.0%
7	4	日新	13,793	8.7%	3.3%
4	5	西日本鉄道	6,305	4.0%	5.4%
5	6	阪急交通社	5,632	3.5%	4.2%
6	7	ソニーサプライチェーンソリューション	5,203	3.3%	3.9%
8	8	商船三井ロジスティクス	4,734	3.0%	2.8%
22	9	山九	4,625	2.9%	0.7%
15	10	日立物流	3,832	2.4%	1.4%
13	11	ヤマトロジスティクス	3,656	2.3%	2.0%
9	12	バンテックワールドトランスポート	3,145	2.0%	2.7%
12	13	川崎航空サービス	3,071	1.9%	2.0%
17	14	バックスグローバルジャパン	2,760	1.7%	1.2%
16	15	アイ・ロジスティクス	2,207	1.4%	1.2%
20	16	イージーエルジャパン	2,166	1.4%	0.8%
14	17	西濃シェンカー	1,801	1.1%	1.5%
19	18	TASエクスプレス	1,784	1.1%	1.0%
10	19	UPSサプライチェーンソリューション	1,733	1.1%	2.7%
11	20	ダンザス丸全	1,595	1.0%	2.4%
25	21	NECロジスティクス	1,325	0.8%	0.7%
21	22	エクスペダイダーズジャパン	1,256	0.8%	0.8%
29	23	南海エクスプレス	1,172	0.7%	0.5%
18	24	阪神エアカーゴ	1,041	0.7%	1.1%
24	25	三菱倉庫	736	0.5%	0.7%
26	26	ジェイティービーカーゴ	698	0.4%	0.6%
27	27	ユナイテッド航空貨物	618	0.4%	0.6%
28	28	ユー・ティー・アイ	405	0.3%	0.5%
30	29	DHLジャパン	161	0.1%	0.5%
23	30	キューネアンドナーゲルジャパン	157	0.1%	0.7%

日本発 中国宛 航空混載貨物重量シェア[2006年]



中国(香港含む)における日系物流企業上位10社
[2006年 現地社員数による比較]



子会社(共同出資会社)の事業内容

子会社(共同出資会社)は、山九(株)の航空貨物事業をベースに、荷主から依頼を受け、実輸送事業者(航空会社)を使った国際間の貨物運送を引き受ける航空フォーディング業務を主として行う。

併せて、現在山九(株)と郵便事業株式会社の連携で行っている国際小口貨物サービスも共同出資会社へ移管していく予定。

具体的には、以下の事業等を行う予定

○貨物利用運送事業

(荷主の依頼を受けて、実輸送事業者(航空運送事業者・海上運送事業者)の行う運送を利用して行う貨物の運送およびこれに先行・後続して行う自動車集配による当該貨物の運送業務)
……………国際間の輸送手配に必要

・航空輸送の利用

・海上輸送の利用(※山九(株)の手配を利用)



・国際線航空機の貨物スペースの手配・確保、貨物の混載搭載



・※山九(株)の手配を利用運送する



・海外も含めた、トラック集配・輸送の手配



・貨物自動車運送事業

○貨物航空運送代理店業

(荷主に対して、航空機による運送の契約の締結について、航空運送事業者の代理を行う業務)
……………航空会社の代理店としての航空運送状発行に必要

○貨物自動車運送事業

(荷主の依頼を受けて、自動車を使用して貨物を運送する業務)
……………輸入貨物の運送に必要



○通関業

(荷主の依頼を受けて、輸出入の通関手続きを代行する業務)……………貨物の通関を行うために必要

○倉庫業

(荷主の依頼を受けて、物品の倉庫における保管を行う営業)……保管を組合せたニーズ対応に必要



・通関等関連書類の作成支援

等

国際物流における貨物トレーシングのイメージ



お客さまへ
トレーシング情報をご提供

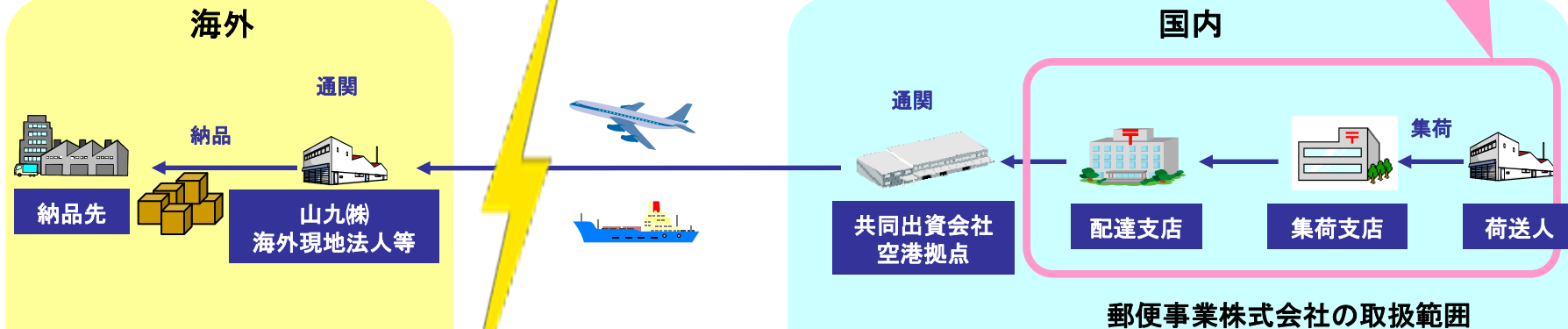
荷送人は、共同出資会社へ集荷依頼後、電子メールで共同出資会社の運送状、郵便事業(株)の輸送用ラベルを受信し、荷物と一緒に集荷者へ渡す

配達完了 ← 輸入通関完了・搬出 ← 着地保税倉庫搬入 ← 相手国到着 ← 発地国出発 ← 輸出通関完了・搬出 ← 税関申告 ← 発地保税倉庫搬入 ← 集荷

(郵便事業会社での輸送中の拠点通過情報入力も有)

(輸出貨物の場合)

【貨物の動き】



【トレーシング方法】

「共同出資会社の運送状の番号」により管理

共同出資会社のITインフラ
(当面は、山九(株)の国際ITインフラに接続)

「日本郵便内の管理番号」により管理

郵便事業(株)の
ITインフラ

- 国際輸送は共同出資会社の運送状で管理、日本国内は「日本郵便内の管理番号」で管理
- 荷主等からの照会があれば、当該共同出資会社の運送状番号から「日本郵便内の管理番号」を特定して、JPのHPにて追跡確認を行う
- 今後、山九(株)と郵便事業(株)との情報システムの直結等の高度化を検討